

小樽港将来ビジョン



小樽市
平成19年11月

はじめに

21世紀を迎え、グローバル化や情報化社会の進展、少子高齢化、環境問題、価値観の変化・多様化など、我が国を取り巻く社会・経済情勢は大きく転換しつつあります。

このような背景にあって、小樽港は、道内経済の長期にわたる低迷や、産業構造、輸送形態の変化により、商港としてかつてない厳しい状況に置かれており、既存貿易の拡大に向けた取組が急務となっているほか、めざましい経済成長を遂げている東アジアや極東ロシアとの貿易振興に向けた新たな取組も必要となってきています。

また、隣接する石狩湾新港との関係も含めた経営戦略を検討し、太平洋側港湾に対して競争力強化が必要となってきています。

一方、近年の港湾空間については、背後都市の「まちづくり」における貴重な資源としても大きなポテンシャルを有することが再認識されており、小樽港においても、新たな視点に立った港湾空間の活用策について、広く検討する必要があるほか、世界的に環境問題への関心が高まってきている中、港湾としての環境負荷低減等に対する取組も重要な課題となってきています。

このような諸情勢の中、今後とも小樽市の都市経営上、重要な位置を占める小樽港の振興策や新たな活用方策について、関係者などのご意見を取り入れながら検討し、「小樽港将来ビジョン」を策定いたしました。

本ビジョンは、おおむね平成30年代後半(おおむね20年後)を目標とした小樽港のあるべき姿を提案するものであり、今後の港湾行政における指針としての性格を持つとともに、今後の小樽港の港湾計画に反映されることとなります。



目 次

・小樽港の現状	．．．．．	P	-	1
1. 小樽港の位置、地勢、気候	．．．．．	P	-	1
2. 小樽港の歴史	．．．．．	P	-	1
3. 小樽港の概要	．．．．．	P	-	2
4. 小樽港とまちづくり	．．．．．	P	-	7
5. 石狩湾新港との関係	．．．．．	P	-	9
・小樽港を取り巻く情勢の今後の動向	．．．．．	P	-	10
・小樽港の課題	．．．．．	P	-	11
・小樽港将来ビジョン	．．．．．	P	-	12
1. 小樽港将来ビジョンの基本理念と基本目標	．．．．	P	-	12
2. 小樽港将来ビジョンの実現に向けた取組	．．．．	P	-	13
3. 小樽港将来ビジョンの実現に向けたゾーニング	．．．．	P	-	18
(ゾーニング図)	．．．．	P	-	21